

父と母のじゅもんムヌナ 工房 なんとむら 和歌嵐香 N 子

ムヌナ ムヌナ ムヌナ は 優しい調べ
ムヌナ ムヌナ ムヌナ は まほうのことば
ムヌナ ムヌナ ムヌナ は 平和の標
ムヌナ ムヌナ ムヌナ は わたしのいみな
ムヌナ ムヌナ ムヌナ と きょうもひびく
ばあちゃんの声
じいちゃんの声
涙まじりの
かあちゃんの声 と
とうちゃんの声

ムヌナ ムヌナ ムヌナ は 平和の行進
いま どんちょうは あがった
ムヌナが叫ぶ
ムヌナがうたう
ムヌナは いま ときはなたれ
大空を舞ふ 風のように
ムヌナは 北の寒空で
ときはなたれた心を 広げて舞いつづける
夜明け前の大空を 雪降りだす大空を
深夜の凍てつく 北の大空に
ムヌナが おどる
ムヌナが うたう
ムヌナは 南からきたのよ
ムヌナの 吐息は
星の彼方へと 旅立つ今

ムヌナよ なけ
ムヌナよ 叫べ
ムヌナよ 両手を広げて うたうんだ
世界に向かってうたうんだ
たちあがれ ムヌナ こわがるな ムヌナ
まわりのみなさんといっしょに
うたい おどる ムヌナの調べ
人が人をあやめない日を願ひ
枯れるな水脈とうたい

ありがたい神様方と
おんなじぐらい まわりにいる
いてほしくない マヌムヌには
やさしく やさしく向き合えば
ムヌナの日々が むくわれる
痛かった日
辛かった日
苦しかった日
むなしかった日……
全てが いま むくわれる
(潮時というものか?)

ムヌナよ 死ぬ日まで
うたうんだ
イヤイヤ 死んでも うたいなさい
アフリカのムラから
世界に向かって うたうんだ
チチカカ湖のほとりから
ネパールのムラから
ポーランドの林の中から
たけしろさんの部屋から
ダッタンのムラから
……
……
……
……
……
……

……
……
……
……
……
……

たくさんの ムヌナが おどりだす
ムヌナの群は 今

とうゆまりひり とうゆまりひりよお
ひいりひりひり
たばらりたる たばらりたる
ウオオストゥイ タバラリヒリィ～～
ヒリヒリヒリ～

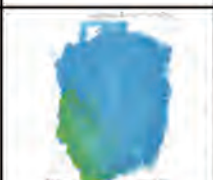
与那国島・工房 なんとむら 和歌嵐香N子作品展目録



1		解説ポスター0	描くことは祈ること。和歌嵐香N子さんのプロフィール。
2		ワタシが産まれた	ひどいつわりの末に産まれたワタシは黒いかたまり。生き延びて母ちゃんの胸に抱かれたのは、産まれて20日たった時だった。
3		ドゥイヌチュ（百合の露）	体が弱くて、朝露のようにはかなく消えてしまいそうだった幼い私は、チュ（露）というあだ名で呼ばれた。
4		海辺でじいちゃんと月光浴	ウトゥントウガナチ（月の光様）の恵みを受けて弱い体を強くする。満月の日とその前後にはじいちゃんが私をはげます声が今も聞こえる。
5		お守りをつけて祈りと清め	初めてフガヌトゥの漂流の物語を聞くために、お年寄りの集まりに出ることになり、緊張して鶏と猫と一緒におぼらいをしてもらった2歳の私。
6		木ノ下ウスマイ族の木	私の母方は平安座島からきた木ノ下ウスマイの子孫。子孫の家にはガジュマルの木があり、一族が集まってその下で宴をしていた。
7		胎内の記憶	胎内で聞いた汚い言葉を思い出して、その声の持ち主の家の前で怒りにふるえながら泣いてシコを踏む6歳の私。
8		チンブルヌミドゥティ（屋根の上の女の子）	突然チンブル（屋根のてっぺん）に登って、まるで拡声器のように大声で叫び続ける私。その家の人に危険が迫っているという警報だった。
9		肥溜めからは上がる6歳児	ウドウル（肥溜め）は、日常生活でもっとも神聖なところ。そこに落ちるたび、欠け落ちて散り散りになった魂をひろい集めてもらった。
10		口嚙酒をつくる7歳児	4日間かけて行事のミッティ（口嚙酒）を作るのは私ひとりの仕事だった。つらくて泣きながら嚙んでいると、子どもたちがはやしたてた。

11		海中の種籾を見守る仕事	発芽前の種もみを海の水に浸ける。天気が急に変わらないか空を見続けるのが7歳の私の仕事。6人の大人たちは誰も手伝ってくれない。
12		苗代の苗に歌う	大人が学校に私を借りに来る。苗代の苗たちが広い田んぼに移るのを納得するまで、漂流民との別れを惜しむ歌をえんえんと歌って聞かせた。
13		詩・雀がいないと私はこまる	人も生き物も岩も水も月の光も、みんなみんな親しくことばを交わすお仲間さん。“自然保護、とか言われても意味わからんよ、私。
14		水牛とナイちゃん	水牛が田んぼを耕す気持ちになるまで、耳元で歌う。ぼちゃん！ と田んぼの泥に落ちるけど、シャツをつかんで大人がひっぱりあげる。
15		HITO:それでもわたしは生きていたい	ひもじくて、腫かすみ、手足はかじかみ、それでもわたしは生きていたい。歌って踊っておなか切れるほど笑って。
16		解説ポスター1	地底・海・天の巡り。いのちつなぎのものたちと水脈。
17		ヌッティヌカアラヌタギィダギィ	よろこびの涙が大地をうるおし、うたうひと声は木の美となり、草木と一体化したHITOは、いのちの源が枯れないように歌い祈る。
18		海亀の子に祈るばあちゃん	飛行場のそばのトゥグル浜で、ばあちゃんは子亀たちを見送る。私が子亀をしばらく育ててから海に送ることもあった。
19		ドナントゥヌドゥワイ	与那国人の祝い。伸びだした草木とともにすべての仲間たちと喜びあう春のピクニックのような祈りの一日。
20		ピロウの葉で雨水を集める	雨のしずくはいのちのしずく。クバの木の水あつめは、フガヌトゥ（漂流民）たちもやっていた。

注：ムヌナは「物言うな」という意味のドゥナンムヌイ（与那国語）

21		畑の竹筒の水溜めの水を飲んだ	畑には、太い竹を並べてそこに飲み水を入れておいた。お日様やお月様の光を受けた水には特別の力がある。
22		井戸を教えた天女	一粒の雨も地上に落ちない中、年寄りや子どもたちが次々に亡くなる。祈りに応えて古見家に現れた天女が、井戸を掘る場所を教えてください。
23		いのり・枯れるな水脈	ニラ（地底）のイティ（気配）を感じとる訓練を幼い時から繰り返させられた私は、与那国島から届く水枯れの報せに心をいためている。
24		ニヌハ（家の北側）の配置図	便所や家畜小屋のあるニヌハは、家の中でもとくに神聖な場所。胎盤を安置し、魚の骨や貝殻を生き物たちへの感謝をこめて寝かせる。
25		アディマ（魔除けの十字）	家畜小屋の中で、豚小屋にはスিজガイ、馬とヤギの小屋には硬い木を十字にした魔除けを下げた。
26		刺繍のニラガナチ	なかなか絵では伝えにくい、地底でニラガナチが生まれて成長する様子を刺繍で表現してみた7枚のうちの2枚。枠織りで表現したこともある。
27		海の底のニラガナチ	ニラは海の底にも広がっている。北海道の十勝岳で、私は「あなたはあなたひとりのあなたではない」というニラガナチの声を聞いた。
28		トゥーガナチに会いに行くニラガナチ	年に何度かニラガナチは地底の洞穴を通して海に流れ出し、トゥーガナチ（海のかみがみ）と出会う。
29		ほぼえみあってぐるぐるぐる	ニラガナチとともに海に流れ出したマヌムヌ（魔物、けがれ）たちは、海の彼方での出会いを喜びあいトゥーガナチの力で天高く上っていく。
30		アラガ沖の水脈のたぎり	1990年、島の南岸アラガ鼻の沖で高く水柱が上がった。その場に行き当たった女性は、それ以後そこでの「イスプディ（磯採集）」をやめた。
31		秋大台風とし来るよ	2017年6月に描いた。私が2歳からムトゥ'カハマイになるための特訓を受けたのは、天気の変化を感じる力をお年寄りが認めたためだという。

32		立秋大雨	地底5寸のところから広がるニラが十分うるおうほどの初夏の雨をディウリアミ（地下り雨）と島では言う。これは北の島の大雨を描いた。
33		月に呼びかける Hito	'ティティンガナチ（お月様）に呼びかけ、歌う。この習慣は島ではなくなってしまったようだが、私はどこで暮らしてもよくやっている。
34		枯れるな水脈	描くことは祈ること。心臓が止まりかけて入院した病院で描いた。水枯れするこの星の水の巡りと、私の中の血の巡りはひとつながりだった。
35		解説ポスター2	十五世紀の史実・ぶがぬとう漂流民との交流。
36		大さわぎするニワトリ	昔むかしの大昔、静かな与那国島でニワトリと猫が昼も夜も走り回って大騒ぎ。何事かが起こる印だと島びとたちは身構えた。
37		板切れにつかまって海の中で助けを求める	魚捕りに出かけた島の人たちが、与那国島と西表島との間の海で見つけた3人は、船のへさきのような板にしがみついていた。
38		海の中で助けを求めるフガヌトゥ	大声で助けを求める3人。自分のお腹のところに紐をまわして、板とくくりつけている人もいた。
39		一生懸命話すフガヌトゥ	ことばは通じないけれど、何かを伝えようとした。かわいそうにほとんど裸でお腹はべちゃんこ、疲れはてていた。涙なしには描けない場面。
40		フガヌトゥを迎えた島人	ムラヌウヤ（村の親）の指示で、浜にフガヌトゥを迎えた女性たち。「この人たちは罰でも受けて髪の毛を短く切られてしまったのかしら？」
41		フガヌトゥの身体検査	ムラヌウヤはフガヌトゥたちの舌をひっぱったりして全身を調べ、健康とわかって大ごちそうをして歓迎した。
42		シキ浜から夕日を見ていた	フガヌトゥたちは、祖納の東のシキ浜で西北の方をながめ夕日を見ては泣いていた。ここはニラガナチが海に流れ出す大切な浜のひとつ。

43		山みかんの花に泣きくづれる	咲き乱れる山みかんの花に泣き崩れるフガヌトゥたち。島人たちもらい泣き。「この人たちの故郷もみかんの花咲く島なんだろうね」
44		魚を珍しがるフガヌトゥ	捕れた魚をいちいち珍しそうに見るフガヌトゥを、島の人たちは珍しがって見ていた。「何がそんなに珍しいのかしら？」
45		フガヌトゥはネズミを追いかける	牛も鶏も食べられないと不満なフガヌトゥにネズミをあげた。逃げ出したネズミを追いかけるフガヌトゥ。後のネズミ追いかけ遊びになった。
46		何か手伝うことはありませんか	いつも島の人たちを手助けして、重い物を持ったり、新しい道具を工夫したりして、たくさんのことを教えてくれた。
47		フガヌトゥが描いた天気予報	毎朝地面にその日の天気予報と仕事の段取りの絵を描いた。絵の横の模様は意味がわからなかった。「今にして思えばあれば字だったのかも」
48		フガヌトゥとの月光の縁結び	賢く親切なフガヌトゥたちと義兄弟になる若者たち。ムラヌウヤは、月の光を浴びてたしかな縁結びをするように宴を準備させた。
49		フガヌトゥの帰郷を報せる木	フガヌトゥの故郷を訪ねる舟を出そうとする若者たちをムラヌウヤは叱った。「いつかは帰郷の報せを伝えてくれる若木を植えなさい」
50		トゥルンダブ（精霊流し）	フガヌトゥたちのためのニンバラでの精霊流し。1950年代の終わりに最後のものが行われたのを、私は覚えている。
51		話者たち	私にフガヌトゥの話を聞かせてくれた明治生まれの人たちの似顔絵。名前は知らない人が多いけれど、かけてくれたことばは今も忘れない。
52		あたしのわとりにさわらんで	2羽の鶏に卵を6個ずつ抱かせて孵化すれば、フガヌトゥたちが無事故郷へ帰れたしるし。鶏と私の大切な役目をいたずらす人がいて困った。

53		解説ポスター3	台湾・南の島々との秘められた交流史
54左		台湾の人たちが見ていたよ	昔むかしの大昔。台湾の山の人たちが東の海に見つけた島。移り住む計画を成功させるまでには、長い時間をかけた協力が必要だった。
54右		台湾から舟を出す時積んだ20束	無人島だった与那国島に移住する台湾からの丸木舟に積み込んだ植物の苗。4人が5束ずつ分担して責任をもち枯れないようにした。
55		ユン（石斧）を使う	畑の畔のアダンの根を切る仕事をまかされた。舟を作るときに使われたもの。大昔、台湾から渡ってきた舟作りの石斧とよく似ているようだ。
56		吹雪	北の大地で、台湾から与那国島に渡った人たちの旅を思い、冷たい風の冬の海辺で、台湾に向けて笛を吹き続けた島のおじいを思い出す。
57		台湾から来た女の子	フガヌトゥが地面に描いた台湾の女の子。台風避難した時についてきたみなし児。ことばを覚え、島の人に引き取られて育ち結婚もした。
58		タイワンズガイ（台湾の装い）	海・野・山の恵みに感謝する気持ちを込めた装い。薬草とりに来るアミ族のおじさん達は「あなたとわしらは兄弟だよ」といつも言っていた。
59		与那国島 なんとむら 免ムヌナの旅	人生最後の故郷、小樽市奥沢の水源地での2022年の祈り。母方のご先祖も 父方のご先祖もすべてのカミガミも お立ち現れください ムヌナ（物言うな）は、父と母がくれたワタシの名前。もうかくれない、もうかくさない。しいたげられた者が歩こうとうたう時 わたしは踊るわよお、手にしたカスターネットならしてさ。私の友はたくさんだよ。